

月 題目 目的 要 項 數理的 生活態度 練成 重點 準備 統合

雨 降水量の測定より増した深さを求めさせ、又時間の計算をさせる。

一、雨量測定の意味、深さの増加
二、計算の練習
三、時間の計算
四、時間の計算の場合二十四時間制にも觸れる。
五、實測の場合の容器につき考へさせ、測定させる。

コケツの空罐

(62—65) 題 問

た 正方形及矩形の對角線につき指導する。
か 正方形の對角線を二つ引くと、正方形は四等分される。
く 正方形の對角線を二つ引くと、正方形は四等分される。

一、正方形、矩形の對角線を二つ引くと、正方形は四等分される。
二、正方形の對角線は、正方形の對角線の長さを二つに等分する。
三、正方形と矩形と別々に取扱はず同時に取扱ふ。
四、作業によつて合同な直角二等邊三角形、及合同な直角三角形に分れることを確かめる。

教師用 大型正方形紙 各二枚 兒童用 正方形及矩形紙

小 正方形を對角線に沿つて四分し、小さな正方形を作り、その邊及、對角線につき指導する。

一、正方形を四分する方法は兒童に考へさせる。
二、實験的に並べて確めるやうにする。
三、色々工夫するところに價值があるのであるから、抽象的な考へ方を要求してはならぬ。
四、圖形の性質を注入するものではない。

正方形五枚づつ 教師用 大型正方形紙 四枚

初等科算數 二

分割題目 目的 要 項 及 練 成 上 の 重 點 其他

(1—23) 算 引 算 寄 章 一 第

1、お宮 (一—二) 三時限
2、校舎の高さ (三—四) 三時限
3、私たちの村 (五—六) 三時限
4、さうこの米 (七—八) 三時限
5、計算れんしよ (九—〇) 三時限
6、重さ (一一—一二) 三時限
7、いろいろな問 (一三—一六) 四時限
8、寄算と引算のれんしよ (一七) 二時限
9、いろいろな問題 (一八—二三) 七時限

一、要項
(1) 前巻で二位數と二位數との寄算及びその逆の引算の暗算のうち比較的容易なものをご指導したが、本章ではその残りを指導すると共に、數範圍を千まで擴張し、暗算による寄算、引算を一通り終らせる。
(2) 計算は四段に分けて指導する。
1、お宮 (四種) 十位が百に繰上る場合の寄算。
2、校舎の高さ (五種) 百が十位に繰下がる引算 (第一段の逆)
3、私たちの村 (四種) 二百までの數範圍で十位、一位の繰上る寄算。
4、さうこの米 (五種) 十位及百位の繰下る引算 (第三段の逆)。
二、練成上の重點
(1) 計算の仕方は、これまでと同様上位から一桁づつ計算して行く。
(2) 困難な計算であるから、最後は完全な聽暗算に到着せしめるにしても、種々取扱、練習方法に段階を工夫して向上させる。
(3) 又既習の計算が基礎となつてゐるのであるから、復習させることが望ましい。重さの計算を取扱ふのは、今迄ではやや困難であつたからここで初めて指導するのである。
(4) 重さを測定する仕方原理を明らかにし、ハカリの構造を理解させるのは今後の理解の指導と相俟つてその理解を深めるのであつて、ここでは單にかういふものであると教へる。
(5) 最初であるから兒童の身近なもので選んで數百グラム程度のもを、實際に計らせ、重さの觀念を明らかにする。

月 目 的 要 項 數 理 的 生 活 態 度 練 成 重 點 準 備 統 合

くらぶのんさ子ぬき
 指位をび位に籠て部
 導も加何が何園、落の
 す上へ十練十、二の比
 るる一に上何、百較に
 寄位何寄加何、百よ
 算も十算へ十、十のつ
 を十何及一何數

一、計算の復習
 二、計算の導入
 三、計算練習
 六、²₃計算練習
 六頁中、下段

一、何十何と何十何を加へ十の位の和が十、一の位の和が十を越えて、結局、百十何となる。導入問題は無いが、その計算の仕方を適宜に導入する。
 二、(3)の導入による計算問題、六頁下段は十分に力を入れて練習させる。

戸數、統計

組隣のちた私
 私たちの隣組など
 の考察から前時
 までに指導した計算
 の練習をする。

一、計算の復習
 二、戸數、人口
 三、調査練習
 21六頁の問題
 補充問題

一、兒童の町、區、隣組の戸數、人口調査をさせ、郷土に關する理解を深める。調査したものの計算に本節を適用させることが出来なくてもよい。
 二、繼續的練習によつて完全な聽暗算にまで到着させるやうにする。

ふのき
 導の又察積村
 す線數はかみ倉
 る下を二ら出倉
 引百からす庫
 算てら何場から
 指算一何合の米
 導線算十位何の考

一、全問題の通
 二、計算の導入
 三、⁷₁計算練習
 八頁上段

一、3の導入による計算問題即ち八頁の下段は特に十分練習させる。
 二、百何十、百何十又は二百から何十何を引き、繰下りがあつて、百何又は百何十何になる導入問題及百何十何から何十何を引いて一位へ繰下り、九十何となる導入問題は無いから適宜に計算の仕方を指導する。

村の倉庫については國家管理の現況を平易に説明してやる。

すあと日今
 一、米の倉庫から米を
 二、倉庫から米を
 三、倉庫から米を
 四、倉庫から米を
 五、倉庫から米を
 六、倉庫から米を
 七、倉庫から米を
 八、倉庫から米を
 九、倉庫から米を
 十、倉庫から米を

一、計算の復習
 二、計算の導入
 三、⁷₁計算練習
 八頁中、下段

一、3の導入による計算問題即ち八頁の下段は特に十分練習させる。
 二、百何十、百何十又は二百から何十何を引き、繰下りがあつて、百何又は百何十何になる導入問題及百何十何から何十何を引いて一位へ繰下り、九十何となる導入問題は無いから適宜に計算の仕方を指導する。

月 目 的 要 項 數 理 的 生 活 態 度 練 成 重 點 準 備 統 合

ふしんれ
 前時までの計算の
 練習をする。

一、計算の復習
 二、総合的計算
 三、調査

困難な暗算で早急に聽暗算とするには困難であるから、今後も繼續して反覆練習させ、目的に達するやうに努める。

調査問
 題及
 用紙

十
 本章で指導した寄
 算と引算をまとめ
 て練習させる。

一、主として寄
 算練習。
 (九頁を主とし
 て)
 二、調査

一、調査によつて兒童が困難を感じるもの、又は誤り易いものを調査する。
 二、出題の順序、形式に變化を與へる。

調査問
 題及
 用紙

同前
 一、主として引
 算練習。
 (十頁を主とし
 て)
 二、調査

同前

同前
 一、総合的計算
 練習。
 調査によつて不徹底部分を正し、尙、補充問題を課す。

月 目 的 要 項 數 理 的 生 活 態 度 練 成 重 點 準 備 統 合

十 重 秤

一、筋測の方法の大體を知らせる。
 二、秤の二種、上皿をばかり、上皿自動秤の計り方の説明も軽く取扱ふ。
 三、百グラムのものから重さの觀念を得させる。
 四、秤の使用法は上皿自動秤は容易であるが上皿をばかり方に、計つた後始末等につき児童の實測中に指導して行く。

一、筋測の方法を指導し、重さの觀念を明らかにする。
 二、筋測の重さを比較する。
 三、筋測の重さを比較する。
 四、筋測の重さを比較する。
 五、筋測の重さを比較する。

一、筋測の方法を指導し、重さの觀念を明らかにする。
 二、筋測の重さを比較する。
 三、筋測の重さを比較する。
 四、筋測の重さを比較する。
 五、筋測の重さを比較する。

十一 さ

一、筋測の方法を指導し、重さの觀念を明らかにする。
 二、筋測の重さを比較する。
 三、筋測の重さを比較する。
 四、筋測の重さを比較する。
 五、筋測の重さを比較する。

一、筋測の方法を指導し、重さの觀念を明らかにする。
 二、筋測の重さを比較する。
 三、筋測の重さを比較する。
 四、筋測の重さを比較する。
 五、筋測の重さを比較する。

十二 (11-12) 水のルトツリシデ

一、筋測の方法を指導し、重さの觀念を明らかにする。
 二、筋測の重さを比較する。
 三、筋測の重さを比較する。
 四、筋測の重さを比較する。
 五、筋測の重さを比較する。

一、筋測の方法を指導し、重さの觀念を明らかにする。
 二、筋測の重さを比較する。
 三、筋測の重さを比較する。
 四、筋測の重さを比較する。
 五、筋測の重さを比較する。

十 いろい

一、筋測の方法を指導し、重さの觀念を明らかにする。
 二、筋測の重さを比較する。
 三、筋測の重さを比較する。
 四、筋測の重さを比較する。
 五、筋測の重さを比較する。

十 いろい

一、筋測の方法を指導し、重さの觀念を明らかにする。
 二、筋測の重さを比較する。
 三、筋測の重さを比較する。
 四、筋測の重さを比較する。
 五、筋測の重さを比較する。

十 いろい

一、筋測の方法を指導し、重さの觀念を明らかにする。
 二、筋測の重さを比較する。
 三、筋測の重さを比較する。
 四、筋測の重さを比較する。
 五、筋測の重さを比較する。

月	月	月
十	十	十
月	月	月
目	目	目
目	目	目
的	的	的
的	的	的
要	要	要
項	項	項
要	要	要
項	項	項
数	数	数
理	理	理
的	的	的
生	生	生
活	活	活
態	態	態
度	度	度
練	練	練
成	成	成
重	重	重
点	点	点
準	準	準
備	備	備
統	統	統
合	合	合

月	月	月
十	十	十
月	月	月
目	目	目
目	目	目
的	的	的
的	的	的
要	要	要
項	項	項
要	要	要
項	項	項
数	数	数
理	理	理
的	的	的
生	生	生
活	活	活
態	態	態
度	度	度
練	練	練
成	成	成
重	重	重
点	点	点
準	準	準
備	準	備
統	備	統
合	合	合

月 題 目 目 的 要 項	數 理 的 生 活 態 度 練 成 重 點	準 備 統 合
<p>十 掛算と割算とを 組合せて計算を 適用させて計算を 順序させること のよさを理解さ す。</p> <p>一、(19)カード 二、(20)みかん 三、(21)柿の指 四、計算練習。</p>	<p>一、実際に並べかへさせることも取扱つてもよいが、考へ方を主として取扱ふ。 二、$3 \times 8 + 4 = 3 \times (8 + 4)$ 又は $3 \times 8 + 4 = 3 \times (8 + 4)$ といふ 二方の考へ方に導き、二方法どちらも正しいことを認めさせ る。しかし等式を書き、説明してはならぬ。 三、應用として横に二枚並ぶやうな場合を取扱つて考へ方を 一層はつきりわからせる。 四、(20)は $20 \times 3 + 10 = (20 + 1) \times 3$ の二方法どちらも正し いことを認めさせる。 五、(21)は $10 \times 4 + 2 = 10 \times 2$ なることを認めさせる。</p>	<p>月 題 目 目 的 要 項</p> <p>十 掛算と割算とを 組合せて計算を 適用させて計算を 順序させること のよさを理解さ す。</p>
<p>一、長さの計算 千までの数 (二四—二六) 範囲に於て 極めて簡單 な掛算割算 を必要とす る實際の場 合を考へさ せ、その暗 算を指導し 練習を行は す。</p> <p>二、(27—二八) 紙 のみの紙とけい を必要とす る實際の場 合を考へさ せ、その暗 算を指導し 練習を行は す。</p> <p>三、長さの計算 (二九) 一時間 算を指導し 練習を行は す。</p> <p>四、歩くはやく (三〇) 一時間 算を指導し 練習を行は す。</p>	<p>(1) 掛算 (イ) 10×3 百に十以下の数を掛けるもの (ロ) 10×20 10×24 十に何十又は何十何を掛けるもの (ハ) 20×6 二十に基数を掛けるもの (ニ) 20×10 何十に十を掛けるもの (ホ) 24×10 何十何に十を掛けるもの (ヘ) 3×100 基数に百を掛けるもの (ト) 50×4 何十に基数を掛けて十の位が繰上るもの (チ) 62×4 何十何に基数を掛けて十の位だけが繰上るもの (リ) 200×4 何百に基数を掛けるもの (ヌ) 210×3 何百何十に基数を掛けて桁毎にをさまるもの (2) 割算 (イ) $700 \div 10$ $1000 \div 10$ 何百又は千を十で割るもの (ロ) $410 \div 10$ 何百何十を十で割るもの (ハ) $400 \div 100$ $100 \div 100$ 何百又は千を百で割るもの</p>	<p>月 題 目 目 的 要 項</p> <p>一、長さの計算 千までの数 (二四—二六) 範囲に於て 極めて簡單 な掛算割算 を必要とす る實際の場 合を考へさ せ、その暗 算を指導し 練習を行は す。</p>

月 題 目 目 的 要 項	數 理 的 生 活 態 度 練 成 重 點	準 備 統 合
<p>十 長さの計算によつ て百に十以下の数 を掛けるもの、及 び十に何十又は何 十何を掛ける計算 を指導する。</p> <p>二、長さの復習 三、(1)の導入問 題と計算。 四、(2)の導入問 題と計算。 五、計算練習。</p>	<p>一、長さの復習は一米は百種、一握は十耗なることを復習する。 二、(1)の計算問題の補充として 100×2 を取扱ふ。 三、(2)の計算指導の場合、例へば 10×13 と 13 の後に0をつけて 130 とすればよいといふやうな教へ方をしてはならぬ。先づ計算の仕方を理解させることに重点を置き、機械的な計算の仕方は練習の結果自然に氣づくやうに指導することが大切である。</p>	<p>月 題 目 目 的 要 項</p> <p>十 長さの計算によつ て百に十以下の数 を掛けるもの、及 び十に何十又は何 十何を掛ける計算 を指導する。</p>
<p>一、長さの計算 千までの数 (二四—二六) 範囲に於て 極めて簡單 な掛算割算 を必要とす る實際の場 合を考へさ せ、その暗 算を指導し 練習を行は す。</p> <p>二、(27—二八) 紙 のみの紙とけい を必要とす る實際の場 合を考へさ せ、その暗 算を指導し 練習を行は す。</p> <p>三、長さの計算 (二九) 一時間 算を指導し 練習を行は す。</p> <p>四、歩くはやく (三〇) 一時間 算を指導し 練習を行は す。</p>	<p>(1) 本章の計算には、交換、配合、結合の法則を適用することが必要であるが、これらの法則は、これまでに實際的に觸れて来たところであり、又、前章でその理解を深めたのである。本章ではかやうな點に注意して、計算の仕方のわけをよくわからせることに重きを置き、基礎を確實にしながらか次第に發展させるのである。 (2) 計算の導入問題の中に歩く速さを取扱ふところがあるが、速さの觀念はここが初めてであるから注意して指導する。</p>	<p>月 題 目 目 的 要 項</p> <p>一、長さの計算 千までの数 (二四—二六) 範囲に於て 極めて簡單 な掛算割算 を必要とす る實際の場 合を考へさ せ、その暗 算を指導し 練習を行は す。</p>

月	題目	目的	要項	數理的 生活態度 錬成 重點	準備 統合
十	れ	計	<p>本章で指導した掛算、割算及びこれに似た形の既習掛算、割算を練習させる。</p> <p>一、三十一頁一 二行目。 二、三十二頁一 二行目。 三、調査。</p> <p>一、調査の反省 二、三十一頁残り。 三、三十二頁残り。 四、補充練習。</p> <p>今後も折を見て反復練習する。</p>		調査問題 紙
二	(31-32) ふ	い	<p>一、1封筒の枚数を求めることとその代償を求めよ。 二、2正方形の面積を求めよ。 三、3の面積の場合西側といふ方位に關する觀念を明らかにする。圖と結びつけて具體的に考へさせるのである。あくまでも事實に即して考へさせることを主とするのである。 四、計算練習は前節の如き問題により反復練習す。</p>		封筒百枚の束

月	題目	目的	要項	數理的 生活態度 錬成 重點	準備 統合
十	ね	問	<p>「勇くん」の家の人々の寝てゐる時間起きてゐる時間を調査し、表及び圖を作ること指導する。</p> <p>一、表について 二、表によつて 三、表の時刻の順序 四、表の時刻の順序</p> <p>一、時間の計算は指を折つて數へたりする仕方よりも、寄算と引算を適用する仕方に重きを置いて指導する。 二、表についての調査事項は考へさせ發表させるとよい。</p>		方眼紙
二	(33-35) 題	ろ	<p>一、4本の木の位置に關する問題。 二、5工場と火の間の距離を求める問題。 三、6飛行機の速度を求める問題。 四、計算練習。</p> <p>一、4本の木の位置に關する問題。 二、5工場と火の間の距離を求める問題。 三、6飛行機の速度を求める問題。 四、計算練習。</p>		準備統合
二	(7) 問	る	<p>一、圖は種々工夫させるがよい。 二、一枚の圖に寝てゐる時間と起きてゐる時間を比較するやうに表すことも取扱ふがよい。 三、兒童の實際について調べ表を作成する。その結果、早寝早起を奨励する。 四、時間はさう詳しくする必要もないから大體の時間でよい。</p>		

初三、算數授業細目

月 題 目 目 的 要 項 數 理 的 生 活 態 度 練 成 重 點 準 備 統 合

前二時で指導した
寄算引算の練習を
させる。
一、四十五頁の
一行目。
二、四十五頁の
二行目。
三、四十五頁の
三行目。

確實に運珠することに重きを置く。

五珠を入れて一珠
を拂ふ寄算を指導
する。
一、1+1の運珠
を行はせる。
二、正しい運珠
を指導する。
三、練習。

一、次時と同一な運珠法であるが、五珠の運珠は重要であるから切りはなしたのである。
二、1+1は暗算又は數觀念に基づいて結果が五となることを知り一を拂つて五珠を入れる方法を指導するであらうが、一應この方法を認めておく。
三、練習をさせる。
四、練習によつて反射的に行ひ得るやうに至らしめる。
五、機械的に珠を附加し又は排除するのではなく、數觀念又は暗算に伴ひ、又多少の考へ方を含ませたものであることに注意すべきである。

五珠を入れて一珠
を拂ふ寄算の残り
を指導する。
一、運珠法を考
へること。
二、正しい運珠
法指導。
三、練習。

一、兒童の中には種々考へて運珠するであらうが、例へば「3+4で、入れようとするとが地にをさまらないから先づ五珠を入れ、次に入れた数即ち5に對する4の補數」だけを引き去る」といふ考へ方によらせる。
二、五珠の指導は今後の指導の基礎になるものであるから念を入れて取扱ふことが必要である。

月 題 目 目 的 要 項 數 理 的 生 活 態 度 練 成 重 點 準 備 統 合

一珠を入れて五珠
を拂ふ引算を指導
する。
一、5-4等の
運珠法を考へ
させる。
二、正しい運珠
法指導。
三、練習。

一、前時の指導により正しい運珠法を考へさせれば容易に氣づくであらう。
二、この指導も重要であるから、指導の徹底を期すること。

一珠を入れて五珠
を拂ふ引算の残り
を指導する。
一、の1+等の
運珠法を考へ
させる。
二、正しい運珠
法指導。
三、練習。

一、この運珠法は寄算の場合の逆であるから、考へさせれば自然と正しい運珠法が出来るであらう。
二、この種の運珠法は基礎的なものであるから念を入れて取扱ふ。

これまでで指導し
た珠算の練習を行
はせる。
一、五十頁一行
二、〃〃二行
三、〃〃三行
四、補充。

一、補充問題を適當に選び、ゆつくり口頭で與へて計算させる。
二、ここまでの指導によつて、正確な結果が得られるといふ自信と、珠算は面白いといふ感じを持たせるやうに努めること。
三、速度にあまり考慮を必要はない。

きよき
事實問題に珠算を
も適させて計算さ
せる。
一、距離を求め
る問題。
二、位置關係の
考察。
三、距離の比
較。
四、珠算練習。

一、問題は初めから珠算で計算することなく、まづ暗算でできるかどうか判断し、できれば暗算ですませ、困難な時珠算を適用する。
二、1の場合方位についても考へさせる。又圖を畫かせてわかり易くする。
三、2の取扱は圖を畫いて考へさせる。
四、1、2とも先づ暗算で行ひ次に珠算で行ひ、結局、珠算が便利であることを認めさせる。

月題目	目的	要項	數理的 生活態度 鍊成 重點	準備統合
(51-52) 問題な	重	一、3全體の重さを求める問題。二、4中みの重さを求める問題。三、珠算練習。	一、「g」は書き方も確實に指導する。 二、(3)(4)とも先づ暗算で試み、次に珠算でも計算させる。	
二 寄	五珠又は一珠だけを拂つて十を入れ寄算を指導する。	一、1+9等の運珠の仕方を工夫させる。 二、正しい運珠法の指導。 三、練習教材取扱。 四、補充問題。	一、10-9 11-9などの場合「十とつて一」と唱へさせるやうにする。 二、補充問題を指導する際には下へ繰下るために五から引くことが起つたり、又は更に上の桁から繰下ることが起るやうな未だ指導してない場合は避ける。	
二 引	十を取つて五珠又は一珠だけを入れ寄算を指導する。	一、圖を見て運珠法の工夫。二、珠正法。三、珠正法。四、補充問題。	一、6+4 7+4のときは「六とつて十」と唱へさせる。 二、圖の一、二、三は運珠の順序であるから、この順序を機械的にまで修練せしめる。 三、補充問題を指導する際には、繰上つた爲に五となるものや更に上の桁に繰上るものは避ける。	

月題目	目的	要項	數理的 生活態度 鍊成 重點	準備統合
(53-60)	寄算	一、圖を見て運珠法の工夫。二、珠正法。三、珠正法。四、補充問題。	一、6+4 7+4のときは「六とつて十」と唱へさせる。 二、圖の一、二、三は運珠の順序であるから、この順序を機械的にまで修練せしめる。 三、補充問題を指導する際には、繰上つた爲に五となるものや更に上の桁に繰上るものは避ける。	
(6)	算引	一、十をとつて五珠と一珠とを入れる引算を指導する。 二、珠正法。三、珠正法。四、補充問題。	一、10-6 11-4のときは「十とつて六」と唱へさせる。 二、補充問題を取扱ふ場合には、繰下るために五から引くことの起るものや、更に上の桁から繰下りの起るものは避ける。	
二 寄	これまで指導した珠算の練習をさせる。	一、五十七頁寄算の一行目最後。二、五十七頁寄算の一行目最後。三、五十七頁寄算の一行目最後。四、五十七頁寄算の一行目最後。五、五十七頁寄算の一行目最後。六、補充練習。	一、寄算、引算の最後の行の三題づつは 1 繰上るために、五となる場合が生ずる寄算。 2 繰下るために、五から引く場合が生ずる引算を新しく指導するのである。 二、補充する場合には運珠法の異なる問題をまぜて取扱ふ、但し未だ指導してない運珠を必要とするものがまじらないやうに注意する。	
二 引	同前	一、五十七頁三行目寄算。二、補充練習。	一、同前 二、興味ある方法により反復練習させて確實に運珠するやうにつとめる。 三、個別的指導を重視し速さを要求することのないやうにする。	

月	題目	目的	要項	數理的	生活態度	練習成重點	準備
三	(68-69) 方位	北東、北西、南東、南西の方位を教へ、物の位置方向を一層明らかに言ひ表すことを指導し、磁針によつて方位がわかることを教へる。	一、教室を中心とした方位を教へる。 二、方位の言葉の教へる。 三、北東、北西、南東、南西の方位を教へる。 四、実際の方位を調べる。 五、磁針の指導	一、方位と通常言ふが、角があるわけではないから、方位の「方」がよいのである。 二、北東、北西などの中間にある地点は「北東より少し北」 三、磁針の「北」の針の向きを教へる。 四、今までは春分の日、日の出のときに太陽が見える方位を教へるが、他の方位を決めてみるが、不便であることを認めさせる。 五、校外修練遠足等に行き、方位の調査をする。	一、先づ分布圖について圖を理解させる。 二、分類の場合、全體の軒數を計算させる。調査の誤りを防ぐ方法である。 三、調査によつて各範圍の家の數を比較させ、引算を行はせる。 四、本圖は更に發展として地理的條件と、人家の分布との關係を見るところへ發展するものである。	一、角に関する復習の意味を含めてみる。 二、一は角の用ひて又は直線上の角により各方位の間の角を知らせる。 三、家庭の方位を知るには見晴しのよい場所から見させる。 四、距離は見當がつきにくい、が、途中の目ぼしい地点、建物などの距離を測つてゆく。 五、方位と直線距離とで決定されることを理解させ得るのである。	「自然の觀察」 課二 方九

月	題目	目的	要項	數理的	生活態度	練習成重點	準備
三	(70) 面圖の校學	私ちの家の分布圖を學校の平面圖を考察させ、この種の圖について理解を與へる。	一、兒童各自の家の方位と距離の圖に記入。 二、調査をさせる。 三、方位について距離の分類について調査をさせる。 四、調査の結果をグラフに表す。 五、調査の結果をグラフに表す。	一、兒童各自の家の方位と距離は前々時「方位」のところ測定した結果を利用する。 二、然し方位、距離共に不正確であるし、又兒童の家が非常に遠いところもあつて都合が悪いから、大體の圖を教師が兒童といつしよに畫く程度でよい。	一、兒童各自の家の方位と距離は前々時「方位」のところ測定した結果を利用する。 二、然し方位、距離共に不正確であるし、又兒童の家が非常に遠いところもあつて都合が悪いから、大體の圖を教師が兒童といつしよに畫く程度でよい。	方位を記入した大きな紙。	
三	校學のちた私	同前	一、問題の解決。 二、私たちの學校のまはり。 三、問題の作成。	一、問題の解決の計算は、最初はすべて暗算により、次に暗算ではやがて困難なものも珠算によつて行はせる。 二、各學校の實際の平面圖を取扱ふことはやがて複雑であつて、程度が高くなるが、その時期が適當に畫かせることも意義あることである。 三、ただ大體の様子を知らせる程度に軽く取扱ふ。	一、確實に計算するやうにし、又適當な補充問題を與へて練習させる。 二、取扱の場合兒童の問題の排列の順序に拘泥することなく、順序を色々に變へ、又、取扱の方法をも變へて練習させる。 三、調査によつて兒童が困難を感じるものや誤り易いものを、適當に修正する。	調査問題及用紙	

月題目	目的	要項	數理的生活態度	練習或重點	準備統合
三 計 算 九 人 し ゝ (71-73)	同前	一、七十一頁三行目。 二、七十二頁三行目。 三、七十三頁三行目。 四、調查。	同前	同前	同前
同前	同前	一、七十一頁四行目。 二、七十二頁四行目。 三、珠算練習。 四、調查。	同前	同前	同前
同前	同前	一、總練習。 二、調查。	同前	同前	同前

初四、算數授業細目

月 題 目	目 的	要 項	數 理 的 生 活 態 度 練 成 重 點	準 備 統 合
四 正 一 君 の 村 (3) 町・村の人口	町の人口に關する問題を考察させる。人口變化の大勢をわからせ、大勢を数の扱ひになれさせる。	一、町の人口 二、村と町の比較	一、この町の人口の増加率は正一君の村の場合に比して遙かに低いやうに見えるが、これは町が隣接の村に向つて發展しつつあるものと考へる。	
四 南 北 の 長 さ (4) 北の村の長さ	正一君の村の南北の長さを求め、キロメートルを導き入る。	一、寄算 二、引算 三、読みこと 四、キロメートル觀念の確把握	一、1300+1700の計算及暗算。 二、キロメートルの觀念。 学校の附近にある二地點の間の距離が二キロメートル三キロメートルある所を歩かせてみたり、時間をはかつたりする。	
四 村 の 習 練 算 計 (5) 習練算計	擴張された數範圍に於ける加減の計算練習をなす。	一、寄算 二、引算 有效數字一桁又は二桁の場合に限る	一、計算の方法は暗算 暗算をするときは上の位からするのが便利であること。 二、補充問題は視暗算より聽暗算可。	
四 習 練 算 計 (6) 習練算計	擴張された數範圍に於ける掛算の練習をなす。	一、被乗數又は乗數の一方が10, 100, 1000の何れかである場合の掛算	一、此の種の計算は大數の掛算の位取りの根據となる。 二、計算の方法。 交換・結合・配分の法則適用	

月 題 目	目 的	要 項	數 理 的 生 活 態 度 練 成 重 點	準 備 統 合
四 校 學 の 兎 の 重 さ (7) 校學の君一正	兒童の學校の兎と正一君の學校の兎とを比較させ、既習計算の練習をはかる。	一、兎の重さの測定。 二、實測した兎の重さの表をつくる。 三、兒童用書の兎と比較。	一、重さを測る練習 學校の道具を入れたカバンの重さ實測 二、測定した結果の整理	
四 校 學 の 兎 の 重 さ (7) 校學	親子四匹の兎の目方に就て考へ、單位「キログラム」を導入する。	一、兎の重さの量り方 二、計算 三、キログラム導入	一、一キログラムの觀念 (1)重さ一キログラムの物の實測 (2)左手及右手で持った感じ (3)形や體積の異つたもの (4)水一リットルが一キログラム	「初等科理科」 一、二頁 兎のせわ
四 習 練 算 計 (6) 習練算計	擴張された數範圍に於ける割算の練習をなす。	一、被除數・除數のどちらかが有效數字一桁の割算 二、考へ方(例) $400 \div 10 = 1000 \div 4 + 10$ $= 1000 + 10 \times 4$ $= 100 \times 4$ $= 400$		
四 算 計 (8) 算 暗	既習の寄算引算の練習をはかる。	一、寄算の既習 二、掛算・既習 暗算	一、暗算の仕方 上の桁から順に計算する 二、千を超える數を扱ふ新教材 760+54) 1200-660 1900-850	

月 題 目	四 (8-9) 習算 (9) 計算 の習熟をはかる。	目的 要項	要項及練習成上の重點	其他
目的	珠算の計算を主とし、四位数の加減をも取扱つて計算の習熟をはかる。	一、そろばんに数を置くこと 二、四位数の加減指導。	一、計算態度の練成。	ブリン ト補充 問題
要項	既習計算の習熟をはかる。			
練習成上の重點				
其他				

(1-15) 數 小 章 二 第

分 割 題 目	小數 (一〇—一一) (二時限) 身體検査 (二時限) (二二) 體温 (三—一五) (五時限)	目的	要項及練習成上の重點	其他
目的	小數が實際に用ひられる場合を取扱つて、小數の觀念を得させ、その唱へ方、書き方を教へ、簡単な寄算・引算を指導する	一、小數の意味、唱へ方、書き方。十進關係にある度量衡の單位を用ひて量を表すとき、下の單位の數値を上を單位を用ひて表す仕方として導く。 二、兒童が自分の身體の發育狀況に注意し體位向上のために積極的な努力をするやうに仕向けることは國民練成上大切である。 三、加減の暗算を取扱ふと共に、珠算を課して、これまでに指導した計算の範圍内で、小數の加減を行はせる。小數の觀念を明らかにすることに重きを置く。	一、小數の意味、唱へ方、書き方。十進關係にある度量衡の單位を用ひて量を表すとき、下の單位の數値を上を單位を用ひて表す仕方として導く。 二、兒童が自分の身體の發育狀況に注意し體位向上のために積極的な努力をするやうに仕向けることは國民練成上大切である。 三、加減の暗算を取扱ふと共に、珠算を課して、これまでに指導した計算の範圍内で、小數の加減を行はせる。小數の觀念を明らかにすることに重きを置く。	
要項				
練習成上の重點				
其他				

月 題 目	四 (10-11) 數 小 (11) 數 小 (12) 體身の私	目的	要項	數理的 生活態度 練成 重點	準備 統合
目的	小數の意義や讀み方を復習し、長さについてこのやうな表し方を指導し小數の觀念を得させる。	一、道しるべの柱に書いてある距離を題材として小數の意義や讀み方を教へる。 二、三、小數の數字による書き方、読み方、練習	一、道しるべについて話合ひ、三、四、五の讀み方と意味の讀み方と意 二、三、小數の數字による書き方、読み方、練習	一、直線實測、六種七耗を認める。 二、「六センチ七ミリ」又は「六十七ミリメートル」を67cmと書くこと。 三、抽象數「〇」は分數十分ノ一でありレイテン一と讀む 四、小數の唱へ方「何テン何何」と言ふのが本體である	準備 統合
要項	小數の意味や讀み方を復習し、長さについてこのやうな表し方を指導し小數の觀念を得させる。	一、帯小數を用ひての長さの表し方。 二、純粹の小數 三、抽象數「〇」は分數十分ノ一でありレイテン一と讀む 四、小數の唱へ方「何テン何何」と言ふのが本體である	一、道しるべについて話合ひ、三、四、五の讀み方と意味の讀み方と意 二、三、小數の數字による書き方、読み方、練習	一、直線實測、六種七耗を認める。 二、「六センチ七ミリ」又は「六十七ミリメートル」を67cmと書くこと。 三、抽象數「〇」は分數十分ノ一でありレイテン一と讀む 四、小數の唱へ方「何テン何何」と言ふのが本體である	準備 統合
練習成上の重點					
其他					

月題目	目的	要項	數理的	生活態度	練成	重點	其他
(13) 妹の病氣	體溫に関する圖及び表を考察させ、體溫變化の状態を理解させる。	一、病氣と體溫 二、平熱 三、折れ線グラフの理解 四、数字の表に書きなほさせる	一、體溫の變化によりて大體病氣の状態がわかること 二、平熱子供は三十七度なること 三、折れ線グラフの特徴 連続的に變化する數量を表すに便である				
(13) 體溫表	前時の體溫に關聯して小數の簡単な暗算を練習させる	一、體溫の最高最低 二、引算を導入	一、或日の何時から何時までにどれだけ體溫が昇つたか どれだけ體溫が降つたか 二、小數の引算 暗算によつて大體の答をださせる				體溫計
(13—15) 五溫							
(14) 算引	前時につづき小數加減の練習をなす	一、體溫の差 二、引算問題練習	一、帶小數から帶小數を引く計算 答は「七分」でよく「れいてん七度」と答へさせる。 二、計算はゆつくり考へて出来ればよい 熟達を急いではいけない。				
(15) 算珠	前時體溫に關聯させて、小數の簡単な算珠の指導をなす。	一、小數のそろばんへの置き方 二、練習	一、そろばんに小數を置くととき、小數を書くとときとは、小數點の位置が違ふこと。				

月題目	目的	要項	數理的	生活態度	練成	重點	其他
(15) 算珠	小數の簡単な算珠の練習をなす。	一、寄算及び引算 二、姿勢指の動かし方に注意					
(16—26) 質性ノ形圖章三第	池の深さ (一六) (二時限) 水平な面と鉛直な線 (一七—一九) (四時限) 三角形 (二〇—二二) (四時限) 平行線 (二三—二六) (五時限)	一、空間に於ける直線と平面の位置關係 二、空間に於ける直線と直線の位置關係 三、空間に於ける直線と直線の位置關係 四、空間に於ける直線と直線の位置關係 五、空間に於ける直線と直線の位置關係 六、空間に於ける直線と直線の位置關係 七、空間に於ける直線と直線の位置關係 八、空間に於ける直線と直線の位置關係 九、空間に於ける直線と直線の位置關係 一〇、空間に於ける直線と直線の位置關係 一一、空間に於ける直線と直線の位置關係 一二、空間に於ける直線と直線の位置關係 一三、空間に於ける直線と直線の位置關係 一四、空間に於ける直線と直線の位置關係 一五、空間に於ける直線と直線の位置關係 一六、空間に於ける直線と直線の位置關係 一七、空間に於ける直線と直線の位置關係 一八、空間に於ける直線と直線の位置關係 一九、空間に於ける直線と直線の位置關係 二〇、空間に於ける直線と直線の位置關係 二一、空間に於ける直線と直線の位置關係 二二、空間に於ける直線と直線の位置關係 二三、空間に於ける直線と直線の位置關係 二四、空間に於ける直線と直線の位置關係 二五、空間に於ける直線と直線の位置關係 二六、空間に於ける直線と直線の位置關係	一、空間に於ける直線と平面の位置關係 二、空間に於ける直線と直線の位置關係 三、空間に於ける直線と直線の位置關係 四、空間に於ける直線と直線の位置關係 五、空間に於ける直線と直線の位置關係 六、空間に於ける直線と直線の位置關係 七、空間に於ける直線と直線の位置關係 八、空間に於ける直線と直線の位置關係 九、空間に於ける直線と直線の位置關係 一〇、空間に於ける直線と直線の位置關係 一一、空間に於ける直線と直線の位置關係 一二、空間に於ける直線と直線の位置關係 一三、空間に於ける直線と直線の位置關係 一四、空間に於ける直線と直線の位置關係 一五、空間に於ける直線と直線の位置關係 一六、空間に於ける直線と直線の位置關係 一七、空間に於ける直線と直線の位置關係 一八、空間に於ける直線と直線の位置關係 一九、空間に於ける直線と直線の位置關係 二〇、空間に於ける直線と直線の位置關係 二一、空間に於ける直線と直線の位置關係 二二、空間に於ける直線と直線の位置關係 二三、空間に於ける直線と直線の位置關係 二四、空間に於ける直線と直線の位置關係 二五、空間に於ける直線と直線の位置關係 二六、空間に於ける直線と直線の位置關係				

月	題目	目的	要項	數理的 生活態度 練成 重點	準備 統合
五	(17-19) 線な直鉛と面な平水				
	(16) さ深の池	學校の池の深さを測らせる。水の深さを測らせる。水の深さを測らせる。水の深さを測らせる。	一、水の深さ。一米五十種。 二、實測。 三、各個に測る。 教師實測	實測の工夫 一、糸が水面に對してどちらにも傾いてゐないこと 二、池の中央を測ること 三、測つた結果は記録して置くこと「約何十種」まで讀めばよし	竿 糸(五十種毎に印) 錘(石)
	(17) 床と柱	作業を通して水平な面、鉛直な線及びその相互の位置關係を理解させる	一、平面、鉛直線の意味。 二、水平面と鉛直線に關する作業	一、平な面・水平な面・鉛直な線 二、水平面・鉛直線の位置關係 (1)、どちらにも傾いてゐない (2)、コップと紙と糸による實驗 三、實例——教室内や校庭に求める	水槽 コップ 錘(小) 糸(米位の)
	(18) 机とつびんえ	平面と直線の垂直關係について大體の觀念を得させる	一、えんぴつを立てる。 (1)眼で見ると判る。 (2)三角定木による實驗。 二、床の水平であることを確かめる方法	一、二方向から確めれば鉛筆がどちらにも傾いてゐないことがわかる 二、錘のついた糸をさげ、床の上に三角定木を立て、合ふかどうか實驗させる (方法は兒童に自由に工夫させる)	
	(18) 道 近	近道を工夫させて直線と直線の垂直關係の觀念を得させる。	一、道をつけること。 (1)自由に考へさせる。 (2)三角定木の直角を利用する。	一、自由に研究させて工夫創造の能を養ふ 二、曲つた小道よりも眞直な小道の方が近い眞直な小道の中では道路と直角になつてゐるものが一番近い 三、三角定木が動かぬやうにして正しく畫かせる	三角定木

月	題目	目的	要項	數理的 生活態度 練成 重點	準備 統合
五	(20-22) 形 角 三				
	(19) 器度分	分度器の使い方を指導する。	一、長さ、角の比較 二、分度器の使用	一、長さ・角の比較 (1)直観によつて比較 (2)物指・分度器によつて比較 二、分度器に就いてその使用方法を教へる	分度器
	(21) 事く畫を形角三	三邊を與へてきまつた三角形が畫けることを指導する。	一、縮圖の寸法 二、ひご又はひもによる研究 三、コンパスに畫くこと	一、三角形の一邊を固定して、他の二邊をその兩端にて回轉させる 二、最初は自由に工夫、次第にコンパスを用ふる方法へ導く	ひご又はひも コンパス
	(21) 事く畫を形角三	二邊とその夾角を與へて、きまつた三角形が畫けることを指導する。	一、縮圖の寸法 二、三角形を畫くこと 三、練習	一、三角形の畫き方 (イ) 直線を引く (ロ) 直線の一端に所定の角をとる (ハ) 第二邊を引く (ニ) 第三邊を引く	三角形を印刷した畫用紙
	(2) 和の角の形角三	角を測る練習の意味で三角形の三つの角の大きさを測らせ、その和が百八十度になることを實驗的に知らせる。	一、三角定木の各角の測定 二、三つの角の和 三、自分のすきな角の三つを測る 四、切抜いた三つの角の和 五、正三角形の角の和	一、「六十度の三角定木」「四十五度の三角定木」 二、測定の状態——記録の方法 三、實驗によつて三角形内角の和は百八十度なることを認めさせる 2(1)不正確……原因の探究 2(2)直角——百八十度 四、正三角形の一つの角の大きさは分度器及び計算にて認めさせる	

月題目	目的	要項	数理的生活態度	練習成重點	準備統合
五 (23—26) 線 行 平	(22) 三角の形を畫く 二角とその夾邊が與へられて、三角の形が畫けることを指導する。	一、縮圖の寸方 二、三角形を畫くこと 三、練習	一、三角形の畫き方 (イ) 直線を引く (ロ) 直線の一端に所定の角をとる (ハ) 他の一端に所定の角をとる (ニ) 二角の左右の端を延長して交らせる	一、二本の直線はどうなつてゐるか (イ) 直線が平行になるか (ロ) 同じ方向に向いてゐるか (ハ) 中が同じであるか (ニ) どの向きでも出合はぬ 二、平行線の引き方 (イ) 三角定木使用 一、平面上にあつて、一直線に直角に交る二直線は平行である	三角定木
(23) 行 平	二直線の平行に關する觀念を明らかにし平行線の畫き方を知らせる。	一、鐵道線路を畫くこと 二、二直線の特徴發見 三、平行及平行線の引き方	一、切抜きは紙を四つ折りして行ふ 二、對邊の平行の調べ方、最初は直觀的に、次には三角定木 三、菱形を畫くこと (イ) 邊の長さ (ロ) 出來上つたもの邊と角をたしかめる	三角定木 木分度器 指物	
(24) 形 菱	菱形の對邊が平行であること、相對する角が等しいことを實驗的に確めさせる。	一、菱形切抜き 二、對邊の平行を確かめる 三、三角定木と指物と分度器で菱形を畫く	一、切抜きは紙を四つ折りして行ふ 二、對邊の平行の調べ方、最初は直觀的に、次には三角定木 三、平行四邊形をしてゐるもの (例) 紙を重ねたものをずらす、階段の手すり等	三角定木 木分度器 指物	
(24) 形 菱	新しい圖形として平行四邊形の性質を考へさせる。	一、マツチ箱をつぶした圖 二、平行四邊形の性質 三、平行四邊形のものを見つけてみる	一、マツチ箱をつぶした形を言はせてみる、畫かせてみる 二、向ひあつてゐる邊が平行(平行四邊形) 三、平行四邊形をしてゐるもの	マツチの空箱	

月題目	目的	要項	数理的生活態度	練習成重點	準備統合
五 (25) 形 梯	新しい圖形として梯の性質を考へさせる。	一、植木鉢の見取圖 二、梯の性質 三、梯形のものを見つけてみる	一、植木鉢の見取圖、眞横からみると等脚梯形 二、一般の梯形、向ひあつてゐる邊の二組が平行である四邊形 三、梯形をしてゐるもの、階臺・炭箱・柱の臺石等	植木鉢	
六 (26) 行 平	平行線の間の距離を測る	一、川に橋をか 二、共通垂線 三、問題(1)(2)	一、橋をかけるには、一方の岸に直線な直線を引く (2) 對岸の線に直角であるかどうか直觀により、三角定木によりたしかめる 二、共通垂線——平行線の巾	準備統合	
分劃題目	計算練習 (一) 時刻と時間 (二) 時刻と時間 (三) 時刻と時間 (四) 時刻と時間	一、暗算、新教材は次の如きものである。 いづれも既習の仕方から類推して計算するやうに指導する。 5+856 708+98 196+203 340+780 260-34 473-170 (道の引算) (道の引算) (道の引算) 1060-720	一、時刻と時間の觀念を一層つきりさせる。 (1) 時刻と時間の觀念を一層つきりさせる。 二、木の高さにては縮圖に對する理解も深める。	第三、圖形の性質と連絡する(木の高さ) 其他	

月 題 目	目 的	要 項	數 理 的 生 活 態 度 練 成 重 點	準 備 統 合
六	(27) 寄算 主として既習の寄算を暗算でなしてその習熟をはかる	一、二位數と二位數。 二、三位數と二位數。 三、三位數と三位數。	一、姿勢・態度 文字の正確 計算の正確 計算に習熟	
	(28) 算引 主として既習の引算を暗算でなしてその習熟をはかる	一、二位數から二位數を引く 二、三位數から二位數を引く 三、四位數から三位數を引く	前同。	
	補充問題 一層暗算の徹底をはかる。	兒童の比較的困難を感じる問題	個別指導	
六	(29) 算珠 三桁又は四桁の數の寄算を算珠にて練習する。	一、三桁と三桁 二、四桁と四桁 三、帶小數	一、計算に習熟させる 二、帶小數の置き方 三、姿勢運珠に注意	

月 題 目	目 的	要 項	數 理 的 生 活 態 度 練 成 重 點	準 備 統 合
六	(29) 算珠 主として既習の引算を算珠にて練習させる。	右の逆の引算	前同。	
	(30) 算珠 既算の寄算、引算を見取算にて行はせ、計算の習熟をはかる。	一、二桁の數 二、三桁の數 三、二桁又は三桁の數 六口まで加へる五口續けて引く	一、見取る數と算盤の位置に注意 二、小數點あるものは特に注意すること	
	(31) 算珠 獨習教材にて、層計算の習熟をはかる。	一、同數を何回も續けて引く 二、統計算	一、答がわかり易いやうにしてある、何回も獨りで練習することを奨励する 二、計……「合せた數」なること 三、全體の數を求める方法工夫	
	(33) 算珠 既習の寄算、引算を讀上算にて行はせ、計算の習熟をはかる。	前同	讀上算注意事項 一、整數は、錢又は圓單位で讀んでもよし 二、次の言葉の使用を理解させる 「なり」「用意……置いては」「では」「寄せては」「引いては」「取つては」「拂つては」「飛んでは」	

月題目	目的	要項	数理的生活態度	練習成重點	準備統合
(38).....(38)	父が旅行から歸る記事を書き、日数・時間の問題を制作し、計算を行はせる。	一、問題の意味把握 二、問題をつくること	一、「どんなことがわかりますか」問題制作 (1) お出かけになって何日目におかへりになったか (2) 私の家から東京までどれだけかかったか (3) 歸でどれだけ待ったか (4) お父さんは汽車で何時間おのりになったか(その他)		準備統合
(39—48) 算 掛 章 五 第	地面のまはり(三九—四〇) 主として千までの数値 葉書と切手(四一—四三) 算を必要とする実際の となりの町まで(四四—四五) 場合を考へ 計算練習(四六) 暗算で解く仕方を指導しその練習を行はせる いろいろな問題(四七—四八) 習を行はせる (二時限)	一、掛算の範囲 積が千以上にならぬ掛算の暗算練習(掛算の暗算完成) 第一段 58×8 160×4 30×3 100×23 400×3 340×4 203×2 106×5 第二段 2×30 4×62 2×300 7×140 6×107 4×122 第三段 20×30 12×80 30×28	二、掛算の方法 (1) 交換の法則 $a \times b = b \times a$ (2) 配分の法則 $(a+b) \times c = a \times c + b \times c$ 三、計算練習 (1) 計算練習ばかり残り長く続けないこと。 (2) 適宜に補充問題を課すること。 (3) 課題の形式、練習の方法に變化をつける。		準備統合

月題目 目的 要項 数理的生活態度 練習成重點 準備統合

月題目	目的	要項	数理的生活態度	練習成重點	準備統合
六 (39—40) りはまの面地	(39) 面地の形方正 正方形の地面の一邊の長さを知つて周囲の長さを求めることから、計算の第一段を指導する。	一、 88×4 計算指導 二、被乗数の十位の数と乗数の十位との積は九以下、若し十以上は上と結ぶ、結局は百何々となる	一、導入問題 (1) 自由に考へさせて答を發見させる (2) 二十八米の四倍であることを認めさせる (3) 掛算による仕方指導 二、呼聲 例 15×7 $70 : 75$ $35 : 105$		準備統合
(40) 大地の形方正	正方形の周囲の長さを求めることから計算第一段の複雑なるものを指導する。	一、 16×4 の種の計算指導 二、計算練習	一、導入問題 (1) 考へ方、算法——頭から掛ける。 (2) 呼聲 $40 : 46$ $24 : 210$: (4) 二、計算練習 困難な計算は例を擧げて説明する		準備統合

月題目	目的	要項	数理的生活態度	練習成重點	準備統合
七 (41) 書葉復往と書葉	前時につづき比較的困難なる計算を中心に指導して、計算の習熟をはかる。	一、計算の方法呼聲復習 二、計算練習(補充問題) 三、困難箇所の發見	指導問題 例 (1) 100×23 では $200 : 300 : 2300$ (2) 400×3 では 300 $1200 : 1200$ (3) $4:2 \times 2$ では 2 $800 : 20 : 200$ 824 (4) 204×4 では 400 $800 : 4400 : 816$		準備統合
(41) 書葉復往と書葉	葉書と往復葉書の代價を求めさせて計算の第二段の簡単なものを指導する。	一、葉書三十枚の代價 二、往復葉書二十七枚の代價 三、計算練習	計算の考へ方 (1) 2×30 は、2を3倍して6、それを10倍して60 (2) 4×27 は、 $4 \times 20 = 80$ 、 $4 \times 7 = 28$ 、 $80 + 28 = 108$		準備統合

月題	目的	要項	數理的 生活態度 練成 重點	準備 統合
七	(41—43) 手切と書葉			
(42) 書葉復往と書葉	書葉と往復書葉の代價を求めさせて計算の第二段のやや複雑なものを指導する。	一、葉書三百枚の代價 二、往復葉書二百三十枚の代價 三、計算練習	計算の考へ方 (1) 2×30 は、二三が六 600、又は 三三が六 630 (2) 4×230 は、四二が 800 : 四三 120 : 920	
(43) 金料の紙手	手紙の郵送料を知らせて、第二段のやや複雑な計算の指導をなす。	一、手紙の郵送料 二、五錢切手百八枚の代價 三、計算練習	一、封をした手紙の郵送料 二十グラムまでは五錢、四十グラムまでは十錢。 二、計算の考へ方 5×108 は、500 : 五八 四一 : 540	
(43) 金料を送る本	本の送料を知らせて、第二段の複雑な計算の指導をなす。	一、本の郵送料 二、九十グラムの本を百二十冊送るには 三、計算練習	一、本の郵送料(第四種郵便物) 重量百グラム又はその端數毎に四錢 二、計算の考へ方 4×122 は、400 : 四二が八、80 : 四二が八 : 488	補充問題
習練算計	補充問題を課して前時までに指導した計算の習熟をはかる。	一、呼聲復習 二、計算練習 三、兒童の難點	一、計算態度の練成。 二、個別指導。	補充問題

月題	目的	要項	數理的 生活態度 練成 重點	準備 統合
七	(44—45) でま町のりなど			
(44) 車動自合乗	乗合自動車の料金を求めることから計算の第三段の簡単なものを指導する。	一、一人二十錢 二十人の料金を 二、計算練習	○計算の考へ方 20×20 は、 一一が四、40 : 400 又は 一一が 40 : 400	
(45) 車汽	汽車賃を求めさせて、計算の第三段を導入する。	一、一人十五錢 二十人の汽車賃 二、計算練習	○計算の考へ方 15×20 は 20 : 一五 十、30 : 300	
(45) 金料のり歸	自動車賃を求めさせて比較的複雑な第三段の計算を指導する。	一、一人二十錢 二十六人分の料金を 二、計算練習	○計算の考へ方 20×26 は、 20 を二十倍して 400、20 を大倍して 120、合はせて 520	
(46) 習練算計	既習の掛算の練習を行はせてその習熟をはかる。	一、既習の掛算 本章第一段の計算 二、本章第二段の計算	一、計算態度の練成(正→逆) 二、困難な箇所發見。	

月 題 目	目 的	要 項	數 理 的 生 活 態 度 練 成 重 點	準 備 統 合
九	(49-50) 當	<p>(50) 習練算計</p> <p>餘りのある割算の練習をさせる。</p> <p>計算の仕方</p> <p>一、計算の仕方</p> <p>1. 順に九九を呼んでみる</p> <p>2. 積が被除数を超える一つ前で止める</p> <p>3. 商と餘りを求める</p> <p>二、九九は順に呼ぶ仕方の外に逆に呼んだり、中途から始めたりするもよし</p> <p>◎便法(最初の方法に習熟したら氣づかせる)被除数の十の位が除数の半分に等しいか、またはこれに近いとき</p> <p>例へば $88 \div 9$ の場合には先づ假商 9 を立てて順に或ひは逆に九九をなす</p>		
九	(51-52) 段ねのれき	<p>(51) 物着の妹</p> <p>妹の着物のきれの長さを求めることから割算の第二段を導入する。</p> <p>一、小さい妹のきれの一米の代價</p> <p>二、大きい妹のきれの一米の代價</p> <p>三、計算練習</p> <p>一、計算の考へ方。</p> <p>(1) $141 \div 2$ は、144の上二桁を2で割つて7を得る。この7は70である。次に一の位の數4を2で割つて2を得。結局72を得る。</p> <p>二、$117 \div 10$、$111 \div 10$、72</p> <p>(2) $225 \div 3$ は、37、21、1(餘り1)、15、35、15、75</p> <p>一、計算の考へ方。</p> <p>(1) $312 \div 4$ は、繰下りに注意して前と同じ方法。</p> <p>(2) $336 \div 3$ は、103、33、6、102</p> <p>(3) $640 \div 4$ は、100(餘り2)、24、4、24、4、160</p>		
	(52) 物着の私	<p>自分の着物のきれの長さを求めることから割算の第二段を導入する。</p> <p>一、私の布の一米の代價</p> <p>二、三米三圓六錢のきれの一米の代價</p> <p>三、四米六圓四錢のきれの一米の代價</p> <p>四、十米のきれの一米の代價</p> <p>計算練習</p>		

月 題 目	目 的	要 項	數 理 的 生 活 態 度 練 成 重 點	準 備 統 合
九	(53) 紙	<p>紙に關する問題を解くことから割算の第三段を指導する。</p> <p>一、教科書復習</p> <p>二、補充問題</p> <p>計算の態度。</p> <p>一、$100 \div 25$、25を二倍、三倍……して商を發見する。</p> <p>二、$98 \div 4$、計算の仕方を工夫する。最初は包含除でなし、次に被除数の十の位と除数の十の位を比べて、何倍であるかを見、次第に小さくして商をきめる。</p> <p>三、$750 \div 25$、75は25の何倍か、その商を10倍する。</p>		
九	(54) 歩	<p>生徒が列をつつて歩く場合の問題から割算の第四段(二位數で割る一般の場合)を導入する。</p> <p>一、五百人が二十分かかる時、二百人が五分かかる時、十人が二分かかる時、何分かかるか</p> <p>二、$300 \div 80$、80で割るには10で割つて3で割ればよい。</p> <p>三、適當な補充問題を課して練習させる。</p>		
九	(55) 歩	<p>學校役場お寺お宮の距離に關する問題から割算の第四段(三位數で割る場合)を導入する。</p> <p>一、お宮までは學校から何倍か</p> <p>二、小學校から役場までの何倍か</p> <p>三、計算練習</p> <p>一、$900 \div 300$</p> <p>包含除の考へ方で最初やらせる、結局は$9 \div 3$なることを理解させる。</p> <p>二、$800 \div 150$(方法は前と同じ)</p> <p>三、$639 \div 331$(最初は包含除、次は等分除の考へ方で行はせる)</p>		

月	月	月	月
目	目	目	目
的	的	的	的
要	要	要	要
項	項	項	項
數	數	數	數
理	理	理	理
的	的	的	的
生	生	生	生
活	活	活	活
態	態	態	態
度	度	度	度
練	練	練	練
成	成	成	成
重	重	重	重
點	點	點	點
準	準	準	準
備	備	備	備
統	統	統	統
合	合	合	合
(60) 教室の作法 学校の作法教室の の廣さを比較させ 縮圖を書かせる。	一、學校の作法 室の廣さ 二、教室の廣さ 三、教室の縮圖	一、作法室を選んだのは疊が敷いてあるから「何疊の室」と 答へさせるためである。	卷尺 畫用紙
縮圖によつてか ず子さんの教室 と理科室の面積 を比較させる。	一、教室、理科 室の縦と横 二、縮圖を畫く こと 三、比較	一、縮圖の畫き方は前時と同じ。 二、比較の仕方 直觀的判斷：片方が少し大きい。 重ね合はせる仕方 餘つた部分を切る——一辺が一種の正方形 一辺が一種の正方形だけ広い。	畫用紙
面積の單位「一平 方寸」を教へ、事 實に即してこの單 位の一般化を圖る	一、面積の單位 「一平方寸」 二、正方形の面 積 三、矩形の面積 四、葉書の面積	一、面積・單位といふ言葉を教へる。 二、一辺が一種の正方形「一平方寸」。 三、一平方寸の正方形を澤山切り抜いて、圖上に列べさせ、 面積を實測する。 四、面積の求め方を自然にわからせる。機械的に面積を出さ せてはいけない。	畫用紙
面積の單位「一平 方米」を教へ、面 積の測定法を指導 する。	一、面積の單位 「一平方米」 二、運動場に正 方形と矩形を かくこと 三、かす子さん の教室と理科 室	一、運動場に正方形・矩形を畫くとき、互に直角な二本の線 を引くには、適當な長さの二本の繩を用ひるか、大きな三 角定木を使ふ。 二、學校の他の室や花壇等自由に測らせて面積を知る。 三、平方cm、平方mは避けること。	繩 卷尺 三角定 木

月	月	月	月
目	目	目	目
的	的	的	的
要	要	要	要
項	項	項	項
數	數	數	數
理	理	理	理
的	的	的	的
生	生	生	生
活	活	活	活
態	態	態	態
度	度	度	度
練	練	練	練
成	成	成	成
重	重	重	重
點	點	點	點
準	準	準	準
備	備	備	備
統	統	統	統
合	合	合	合
(60-63) 積 面	(62) 題問	(63) 積面と長さの横縦	(64-65) 取 草 の 畠
面積に關する問題 を指導して計算法 の理解をさせる。一層 の觀念を一層明瞭 にする。	面積の單位「一平 方米」を教へ、面 積の測定法を指導 する。	正方形・矩形の面 積が邊の長さの變 化によつて變る様 子を觀察させ、面 積の觀念を一層明 らかにする。	兄弟の草取りの間 題を扱ひ、分數の 大小の觀念を一層 明らかにする。
一、矩形の畠の 面積を畫く 二、矩形を畫く こと 三、直角三角形 の面積	一、面積の單位 「一平方米」 二、運動場に正 方形と矩形を かくこと 三、かす子さん の教室と理科 室	一、方眼紙に見 て畫く 二、その右と横 に矩形を畫く 三、考へつた ことを發表	兄弟の草取りの間 題を扱ひ、分數の 大小の觀念を一層 明らかにする。
一、面積が二十四平方メートルの圖を畫くには、縦又は横の一方を 決定して自由に畫く。 二、直角三角形の意味 面積を求めるには 方眼紙を使用する方法 正方形の半分から考へさせる方法	一、面積の單位 「一平方米」 二、運動場に正 方形と矩形を かくこと 三、かす子さん の教室と理科 室	一、圖形の理解 ① 縦横の長さの變化と面積 二、縦が一定で横が二倍三倍……となつたときの面積 横が一定で縦が二倍三倍……となつたときの面積 縦も横も二倍三倍……となつたときの面積	兄弟の草取りの間 題を扱ひ、分數の 大小の觀念を一層 明らかにする。
一、七人が草を同じやうにとるものとして考へさせ、矩形の 畠の圖を畫いて考へさせる。 二、分母の等しい分數では分子の大きい方が大きいことを見 直みづから見出すやうに指導すること。 三、差を求めることは要求してゐないが兒童が問題とするな らば扱つてよし。	一、面積の單位 「一平方米」 二、運動場に正 方形と矩形を かくこと 三、かす子さん の教室と理科 室	一、面積の單位 「一平方米」 二、運動場に正 方形と矩形を かくこと 三、かす子さん の教室と理科 室	兄弟の草取りの間 題を扱ひ、分數の 大小の觀念を一層 明らかにする。
方眼紙	繩 卷尺 三角定 木	方眼紙	方眼紙

月 題 目	目 的	要 項	数 理 的 生 活 態 度 練 成 重 點	準 備 統 合
十	(1) 卵の重さについて	一、卵の重さ。 二、表と圖に關する理解 三、中央値 四、平均値	一、「この割合」とは、三日間に十四の割合の意味である。 二、一箇月は三十日をもつて代表させる意味を分らせる。 三、問題は兒童に自由に考へさせた結果、三十日間は三日間の十倍だから、卵の数も十四の倍になる」と云ふ如くに導く。	初等科 算数 四頁
	(2) さ重の卵	一、卵の重さ。 二、表と圖に關する理解 三、中央値 四、平均値	一、卵を用意して、實際の重さを計らせ、或は手にもつて重さを感ぜさせる。 二、圖表について考察し統計的な整頓の仕方を知らせる。 三、中央値、グラフを考察させ中央に位置する量を代表値とする仕方を導き、代表値の見方、定め方の指導の出発點とする。	初等科 算数 四頁
	(3) 數人の族家	一、折れ線グラフの觀察 二、何人家族が一番多いか	○折れ線グラフについては、家の數と家族の人數との變化を十分考察させる。六人家族の家が最も多く、これより小人数でも多人數でも家の數は減つてゐることを認めさせ、最も家の數の多い六人家族を代表値と見なさせる。	初等科 算数 三頁
	(1-2) さ重の卵	五、中央値・平均値比較 六、平均値、中央値の比較	四、中央値を求める場合量が偶數である様な場合には中央に最も近い二つのどちらでもよいとする。 五、平均値、平均の求め方を暗示する程度でよし。 六、平均値、中央値の比較	

月 題 目	目 的	要 項	数 理 的 生 活 態 度 練 成 重 點	準 備 統 合
十	(3) 數人の族家	一、折れ線グラフの觀察 二、何人家族が一番多いか	○折れ線グラフについては、家の數と家族の人數との變化を十分考察させる。六人家族の家が最も多く、これより小人数でも多人數でも家の數は減つてゐることを認めさせ、最も家の數の多い六人家族を代表値と見なさせる。	初等科 算数 三頁
	(4) 平均	一、1色紙の問 二、2子供の遊び 三、3三つの數	一、三人の色紙を同數にするために、お互にやりとりをして自由に考へさせ、結局三人の色紙を集めて改めて同じ數に分けるやうにする。 二、「平均すること」と「平均」。各組の人數が同じになるやうにすることを平均すると言ひ、同じ數にしたときの一組の人數を四組の人數の平均と云ふ。	色紙
	(5) ツピンエ	一、4お話の本 二、5「ペン」 三、6花子さんの家で食べるお米	一、毎日同じ頁數だけ讀んで三日間に讀み終つたとしたら、一日何頁つづ讀んだことになるかを考へてみることに意義がある。 二、鉛筆を一週間に一握四耗使つたことになる。このことは、兒童の生活と十分連絡して扱ふ。 三、花子さんの家で食べるお米。一日では、十日では、一箇月では(三十日として)	
	(6) べ調きせいせ	一、7小川君の組の成績、補充問題	一、表は兒童の座席の位置の通りに點數を排列したものであることを理解させる。 二、何點の人が一番多いかを調査するには「正丁」の方法に依る。 三、七點が平均であることを計算とグラフによつて認めさせる。	

(19-28) 積體・體方直 章二第

月題目	目的	要項	數理的 生活態度 練成 重點	準備 統合
(19) 點頂・稜・面	直方體の觀念を明らかにし、直方體の各部の名稱を教へ、直方體の縦横高さの表し方を理解させる。	一、直方體の名稱とその觀念 二、面・稜・頂點 三、面・稜・頂點のそれぞれ 四、面・稜・頂點の長さ 五、面・稜・頂點の形と大きさ 六、縦横高さの表し方	一、展開圖については次のやうなことを明らかにする。向ひあつた面はどれか、上下の面はどれか、右左・前後の面はどれか、入つた頂點はどれか、縦・横・高さはどれか。 二、表面積の計算に就ては種々考へさせ、結局矩形を全部計算することなく、二つの矩形の面積を計算すればよいことに気づかせる。 三、直方體をつくるには紙をむだにせぬこと。	初等算数 二等算数 直方體の 名方 教名 あ教 るへ るへ
(20) 圖開展	直方體の展開圖を取扱ひ、その觀念を一層明瞭にする	一、展開圖 二、この直方體の縦・横・高さ 三、この直方體の面・面積 四、直方體をつくること	一、展開圖については次のやうなことを明らかにする。向ひあつた面はどれか、上下の面はどれか、右左・前後の面はどれか、入つた頂點はどれか、縦・横・高さはどれか。 二、表面積の計算に就ては種々考へさせ、結局矩形を全部計算することなく、二つの矩形の面積を計算すればよいことに気づかせる。 三、直方體をつくるには紙をむだにせぬこと。	初等算数 二等算数 直方體の 名方 教名 あ教 るへ るへ
(21) 位置の面と稜	直方體を観察することによつて稜・面の位置關係を明らかにする。	一、稜が平行となつてゐること 二、横の面と下の面の平行	一、教科書の圖の各頂點に名稱をつけて觀察させるがよい。 二、稜の平行は直觀的に認めさせるだけで十分である。 三、どちらにも傾いてゐないことをたしかめるため三角定木を使用するが、實際生活にも應用させる。 四、平行な面は三組である。本を二冊机の上に立てて表紙が平行になるやうにさせる。	教師用 定三 木角
(22) 體方立	直方體の特別な場合として立方體を扱ひ、その性質を明らかにする。	一、立體といふこと 二、立方體をしようするもの 三、立方體の面 四、立方體の製作	一、立方體では稜の長さがすべて等しいこと、面がすべて正方形であることを明らかにする。 二、作り方は直方體の場合と同様に作る。 三、表面積の求め方としては、一つの面の面積を六倍する仕方に気づかせる。	積木
(22) 體方立	前時までに指導した直方體の復習し、性質を復習させて、見取圖を復習させる。これを明確にする。	一、復習 二、見取圖を畫くこと	一、物の形状を見取圖にすることは、實生活にも必要なことであるから十分指導する。 二、最初は兒童用書の寫眞を参照して圖を畫かせる。次に兒童の作つた直方體・立方體を種々の方向から見たものを畫かせる。 三、見えない稜を點線で畫くことを教へる。	直方體 立方體 の立 模骨 型組

初等算数から算数に於ける幾何の材料としての直方體の復習を指導するに際しては、児童の生活に於ける直方體の實際の姿を指導し、その性質を明らかにする。

月題目	目的	要項	數理的 生活態度 練成 重點	準備 統合
(19-22) 體方立	直方體の特別な場合として立方體を扱ひ、その性質を明らかにする。	一、立體といふこと 二、立方體をしようするもの 三、立方體の面 四、立方體の製作	一、立方體では稜の長さがすべて等しいこと、面がすべて正方形であることを明らかにする。 二、作り方は直方體の場合と同様に作る。 三、表面積の求め方としては、一つの面の面積を六倍する仕方に気づかせる。	積木
(20) 圖開展	直方體の展開圖を取扱ひ、その觀念を一層明瞭にする	一、展開圖 二、この直方體の縦・横・高さ 三、この直方體の面・面積 四、直方體をつくること	一、展開圖については次のやうなことを明らかにする。向ひあつた面はどれか、上下の面はどれか、右左・前後の面はどれか、入つた頂點はどれか、縦・横・高さはどれか。 二、表面積の計算に就ては種々考へさせ、結局矩形を全部計算することなく、二つの矩形の面積を計算すればよいことに気づかせる。 三、直方體をつくるには紙をむだにせぬこと。	初等算数 二等算数 直方體の 名方 教名 あ教 るへ るへ
(21) 位置の面と稜	直方體を観察することによつて稜・面の位置關係を明らかにする。	一、稜が平行となつてゐること 二、横の面と下の面の平行	一、教科書の圖の各頂點に名稱をつけて觀察させるがよい。 二、稜の平行は直觀的に認めさせるだけで十分である。 三、どちらにも傾いてゐないことをたしかめるため三角定木を使用するが、實際生活にも應用させる。 四、平行な面は三組である。本を二冊机の上に立てて表紙が平行になるやうにさせる。	教師用 定三 木角
(22) 體方立	前時までに指導した直方體の復習し、性質を復習させて、見取圖を復習させる。これを明確にする。	一、復習 二、見取圖を畫くこと	一、物の形状を見取圖にすることは、實生活にも必要なことであるから十分指導する。 二、最初は兒童用書の寫眞を参照して圖を畫かせる。次に兒童の作つた直方體・立方體を種々の方向から見たものを畫かせる。 三、見えない稜を點線で畫くことを教へる。	直方體 立方體 の立 模骨 型組

直方體の復習を指導するに際しては、児童の生活に於ける直方體の實際の姿を指導し、その性質を明らかにする。

(29-37) 算 算 算 算 算

分割題目	目的	要項	及	練成上の	重点	其他
慰問袋 (一九一三〇) (二時限) 工作の材料費 (三一一三三) (二時限) 正男の工夫 (三三三) (一時限) 筆算の練習 (三三四) (二時限) いろいろな問題 (三五一一三七) (三時限)	掛算を必要とする 場合を考察させ、その筆算を指導し練習を行はせ、活用をはかる	一、本章で取扱ふ掛算 1 第一段 何百何十何、何千何百何十何、何千何百何、何千何十何に基数を掛ける掛算 2 第二段 何十何、何百何、何百何十何に何十何を掛ける掛算 3 第三段 何百何十何に何十何を掛ける掛算 何千何百何十に基数を掛ける掛算 二、練成上の重点 1 筆算の方法は普通一般に行はれてゐる方法による九九の呼び方は、常に一定の数を冒頭に呼ぶやうにする、そしてこれは常に念頭に置くやうに習慣づける 2 筆算の方法は出来るだけ児童自ら気づくやうに指導すること。 3 計算練習は、筆算による密算・引算の指導と同様な注意のもとに行ふ。				

月題目	目的	要項	數理的	生活態度	練成重点	準備統合
慰問袋 (29) 慰問袋	慰問袋に入れる物の目方を測ることから、三位數又は四復數に基数を掛ける筆算を指導する。	一、雑誌三冊の重さ 二、雑誌四つの重さ 三、横面六冊の重さ	$\begin{array}{r} 225 \\ \times 3 \\ \hline 675 \end{array}$	一、(1)(2)(3)は児童に自由に考へさせて計算させる。 二、225の5を掛けること。 種々の方法を考へさせるのであるが結局次の如くする。	$\begin{array}{r} 225 \\ \times 3 \\ \hline 675 \end{array}$	一、被乗數に1のあらはれる場合、例へば1に2を掛けるときには「二が二」と呼ばせて調子をとることもよい。 二、途中に缺位のあるものは特に指導すること。 三、出来るだけ興味をもつて計算出来るやうに工夫し、確實に計算することに重きをおく。

月題目	目的	要項	數理的	生活態度	練成重点	準備統合
(29-30) 習練算掛 (30) 習練算掛	前時に指導した掛算の筆算を練習させ、計算の習熟を圖る。	三位數又は四位數に基数を掛ける掛算	$\begin{array}{r} 3 \\ \times 4 \\ \hline 12 \end{array}$	一、被乗數に1のあらはれる場合、例へば1に2を掛けるときには「二が二」と呼ばせて調子をとることもよい。 二、途中に缺位のあるものは特に指導すること。 三、出来るだけ興味をもつて計算出来るやうに工夫し、確實に計算することに重きをおく。	$\begin{array}{r} 3 \\ \times 4 \\ \hline 12 \end{array}$	一、被乗數に1のあらはれる場合、例へば1に2を掛けるときには「二が二」と呼ばせて調子をとることもよい。 二、途中に缺位のあるものは特に指導すること。 三、出来るだけ興味をもつて計算出来るやうに工夫し、確實に計算することに重きをおく。
十 (31) 費料材の作工	工作の材料費を集める場合の考察から、計算の第二段を導入する。	一、一人分二十四錢、二十三人分のお金 二、二十五人分の代金 三、九十六人分の代金	$\begin{array}{r} 24 \\ \times 23 \\ \hline 72 \\ 480 \\ \hline 552 \end{array}$	計算の仕方は児童に自由に考へさせ結局次のやうに導く。 (イ) 矢の方向に番號の示す順序に順つて呼ぶ。 (ロ) 繰上るものについては注意を要す。	$\begin{array}{r} 24 \\ \times 23 \\ \hline 72 \\ 480 \\ \hline 552 \end{array}$	一、被乗數に1のあらはれる場合、例へば1に2を掛けるときには「二が二」と呼ばせて調子をとることもよい。 二、途中に缺位のあるものは特に指導すること。 三、出来るだけ興味をもつて計算出来るやうに工夫し、確實に計算することに重きをおく。
二 (32-32) 費料材の作工 (32) 習練算掛	前時に指導した掛算の練習をさせ、計算の習熟を圖る	二位數又は三位數に二位數を掛ける掛算	$\begin{array}{r} 2 \\ \times 2 \\ \hline 4 \end{array}$	一、時々九九を呼ぶ順序を言はせて適否を檢し指導する。 二、確實に計算をさせる。	$\begin{array}{r} 2 \\ \times 2 \\ \hline 4 \end{array}$	一、被乗數に1のあらはれる場合、例へば1に2を掛けるときには「二が二」と呼ばせて調子をとることもよい。 二、途中に缺位のあるものは特に指導すること。 三、出来るだけ興味をもつて計算出来るやうに工夫し、確實に計算することに重きをおく。
(33) 三夫工の男正 (83) 三夫工の男正	正男の工夫を考察し計算の第三段を扱ふものである。	一、正男の工夫の理解 二、「どんな仕方せう」 三、掛算練習	$\begin{array}{r} 370 \\ \times 28 \\ \hline 2960 \\ 7400 \\ \hline 10360 \end{array}$	一、七九二を十倍するには七〇と九〇と二に分けて各々を十倍して合計することから、七九二の下に〇をつけて各々の機械的方法に気づかせる。 二、「どんな仕方せう」自由で考へさせる。 大體上記の方法に導く。	$\begin{array}{r} 370 \\ \times 28 \\ \hline 2960 \\ 7400 \\ \hline 10360 \end{array}$	一、被乗數に1のあらはれる場合、例へば1に2を掛けるときには「二が二」と呼ばせて調子をとることもよい。 二、途中に缺位のあるものは特に指導すること。 三、出来るだけ興味をもつて計算出来るやうに工夫し、確實に計算することに重きをおく。

月題目	目的	要項	数理的生活態度	練習成重點	準備統合
十 (34) 三習練の算筆	本章で指導した筆算の掛算を練習させる。	一、三・四位數に基數を掛け、二、二・三位數に二・三位數を掛ける。	一、數字を正しく行・列をそろへ、確實に計算することに重きを置く。 二、珠算の寄算で検算出来るものはさせてもよい。		
二 (35-37) 題問ならいろいろ	特に紙テープの問題では考へ方に重きを置いて取扱ひできるだけ具體的に指導する。	一、花子さんの運針 二、紙テープ。 三、杉の丸太のねだん 四、丸太の運搬	一、十六枚の紙をつぐには十五回つげばよいことに気づかせる。若しもわからぬやうであつたら二、三枚の細長い紙で研究させてみる。 二、計算は筆算、暗算何れでもよし。		細長い紙
二 (1)(2)(3).....(35)	いろいろな方法を發表させ、比較考察して思考力を練る。	一、部落會費の合計 二、ふすまのはりかへ 三、鳥のまはり	一、1は母姉私が集めた會費を別々に求めて寄せる方法と、まづ全體の家を求めて次にお金の合計を出す方法と二つある。兩方指導する。 二、23兒童のとつた色々な仕方を比較して取扱ふもよい。		

月題目	目的	要項	数理的生活態度	練習成重點	準備統合	
(38-52) 算 割 章 四 第	山の高さ(三八一四一) (四時限) まきと炭(四二一四四) (四時限) 計算練習(四五) (二時限) 列の數(四六一四八) (四時限) 計算練習(四九一五〇) (三時限) いろいろな問題(五一五二二) (二時限)	一、割算を必要とする場合の考察を指導し、その筆算練習を指導し、活用をはかる。 二、高さについて三角形の高さ、山の高さを取扱ふ。 三、指導上の注意事項 1 割算では寄算・引算・掛算をすべて行はなくてはならないから、特に確實に計算するやうに指導することが大切である。 2 「高さ」の指導に當つては、觀察實驗・實測・作圖などの作業を重んじ内容を具體的に直觀的に捉へさせるやうにすることが大切である。	一、割算を必要とする場合の考察を指導し、その筆算練習を指導し、活用をはかる。 二、高さについて三角形の高さ、山の高さを取扱ふ。 三、指導上の注意事項 1 割算では寄算・引算・掛算をすべて行はなくてはならないから、特に確實に計算するやうに指導することが大切である。 2 「高さ」の指導に當つては、觀察實驗・實測・作圖などの作業を重んじ内容を具體的に直觀的に捉へさせるやうにすることが大切である。	一、割算を必要とする場合の考察を指導し、その筆算練習を指導し、活用をはかる。 二、高さについて三角形の高さ、山の高さを取扱ふ。 三、指導上の注意事項 1 割算では寄算・引算・掛算をすべて行はなくてはならないから、特に確實に計算するやうに指導することが大切である。 2 「高さ」の指導に當つては、觀察實驗・實測・作圖などの作業を重んじ内容を具體的に直觀的に捉へさせるやうにすることが大切である。	一、割算を必要とする場合の考察を指導し、その筆算練習を指導し、活用をはかる。 二、高さについて三角形の高さ、山の高さを取扱ふ。 三、指導上の注意事項 1 割算では寄算・引算・掛算をすべて行はなくてはならないから、特に確實に計算するやうに指導することが大切である。 2 「高さ」の指導に當つては、觀察實驗・實測・作圖などの作業を重んじ内容を具體的に直觀的に捉へさせるやうにすることが大切である。	暗算と初算の算則を指導し、三算の一貫性を指導する。
(8)(9).....(37)	問題は具體的に指導し、本章指導の筆算の適用を十分にさせ、計算の習熟にも努める。	一、基盤の目の數、四角の數 二、直方體の箱の體積 三、9は筆算が體積を求めさせる。	一、「線の交つたところ」圖を畫いて説明する。 二、縦の一つの線に幾つの交りがあるか、この線がいくつあるか、兩者を掛け合せて求める、四角の數も同様にして求められる。 三、9は筆算が體積を求めさせる。		基盤の目、小した寫圖、刷	

月	月	月
目	目	目
的	的	的
要	要	要
項	項	項
数	数	数
理	理	理
的	的	的
生	生	生
活	活	活
態	態	態
度	度	度
練	練	練
成	成	成
重	重	重
点	点	点
準	準	準
備	備	備
統	統	統
合	合	合
(46-48) 数の列	(45) 習練算計	(45) 習練算計
(47) 習練算計	(46) 数の列	(45) 習練算計
前時に指導した割算の計算練習をなす。	筆算・割算として一般的な場合のうちで最も簡単な第二段の計算法を指導す。	既習の割算の練習をさせて計算の習熟をはかる。
一、上段は前頁12に属する計算 二、下段は前頁34に属する計算	一、列の数 1. $529+25$ 2. $590+25$ 3. $1288+95$ 4. $1250+56$	一、何十何を何十何で割つて 二、何十何を何十何で割つて 三、何十何を何十何で割つて 四、何十何を何十何で割つて
一、5計算の仕方は前問と同様にすればよいが、ちがふのは商の十の位の数が、假商よりも小さいことである。この點に注意する。 二、假商を除数に掛けてみる時には、除数の下の位から先に掛けるやうにさせる。	一、1の考へ方「九九の呼び方」 21 (20+1) 2を掛ける) 二五 十(0を掛ける) 25) 5 2 5 5 0 5 0 2 5 2 5 二、2 3 4 は各々比較しながら扱ふ。	一、たくさんの計算を一度に課すると児童は倦怠を感じる。 工夫して練習させることが大切である。
補充問題 印刷刷		「初等算科 で指導 するの にあつ ては」

月	月	月
目	目	目
的	的	的
要	要	要
項	項	項
数	数	数
理	理	理
的	的	的
生	生	生
活	活	活
態	態	態
度	度	度
練	練	練
成	成	成
重	重	重
点	点	点
準	準	準
備	備	備
統	統	統
合	合	合
(46-48) 数の列	(49) 習練算計	(50) 習練算計
(48) 数の列	習練算計	習練算計
第二段の計算の中で比較的むづかしい問題を扱ひ、計算に習熟せしめる	既習の暗算、筆算による割算の練習をさせる。	本章で指導した割算の練習をさせる
一、列の数 5 $1540+28$	一、暗算の練習 教材 二、筆算の練習 教材	一、既習の割算 教材 二、一度に多くの問題を課すると児童は倦怠を感じるから、適宜に問題を区切つて練習させる。
一、ここで取扱ふ割算は特に複雑なものであるから、落ちついてしつかり計算させる。計算の速度には重きを置かぬ。 二、假商の立て方になれさせる。	一、補充問題を課する場合には、少くとも被除数だけは書いて示し、それを見ながら計算させる。	
補充問題 印刷刷		

月 題 目	目 的	要 項	数 理 的 生 活 態 度 練 成 重 點	準 備 統 合
二 積 面 と 形	(54-55) 形邊四行平	平行四邊形の面積を計算させ、併せて三角形の面積の求め方について補充する。	一、7 平行四邊形の「底邊」と「高さ」の意味を知らせ、面積は底邊の長さを表す数に高さを表す数を掛ければよいことを理解させる。 二、8 高さは「頂點からの垂線が底邊の延長上に落ちる」ことに注意する。	
	(54) 形邊四行平	平行四邊形の面積の計算法の根據を明らかにする。	一、5 に於ては對角線によつて平行四邊形が二つの全く等しい三角形に分けられることを明らかにし、高さは實測によつて求めさせる。 二、6 は考へ方に重きを置いて指導する、どこにはさみを入れるか自由に考へさせる。	
	(53-57) 形 梯	三角形の面積の求め方を通用して梯形の面積の計算法を指導する。	一、9 三角形の面積の求め方から梯形の面積を求めよう。 二、10 二つの梯形で平行四邊形をつくる。 三、11 梯形を切つて三角形をつくる。 四、12 梯形の面積の求め方	
	(55-56) 形 梯	三角形の面積の求め方を通用して梯形の面積の計算法を指導する。	一、9 10 11 は主として作業により、梯形の面積の計算法の根據を明らかにする。 二、12 では先づ「上底」「下底」「高さ」を教へる。上底の長さを表す数と下底の長さを表す数とを寄せたものに、高さを表す数を掛けて、それを二等分すれば求められることを實質的に認めさせる。	

月 題 目	目 的	要 項	数 理 的 生 活 態 度 練 成 重 點	準 備 統 合	
二	(53-7) 積 面 と 形	(57) 形角多正	正六角形をやや精細に觀察させその觀念を明らかにし、畫き方を指導する。	一、13 正六角形 二、14 正六角形の畫き方	正六角形 刷寫
		(56-57) 形角多正	正六角形をやや精細に觀察させその觀念を明らかにし、畫き方を指導する。	一、13 正六角形 二、14 正六角形の畫き方	正六角形 刷寫
		(53-7) 積 面 と 形	正六角形・正六角形の觀念を得させその畫き方を指導する。	一、15 正八角形 二、16 正五角形	
	(58-63) 題問なるいろいろ	(2) ……(59)	兒童用書の正六角形の長さを三倍した圖を畫き、その圖の面積はもとの何倍であるかを考察させる。	一、面積の計算 三角形 四角形 平行四邊形 梯形	
		(1) ……(58)	數種の圖形について面積を計算させる。	一、面積の計算 三角形 四角形 平行四邊形 梯形	
		(58-63) 題問なるいろいろ	兒童用書の正六角形の長さを三倍した圖を畫き、その圖の面積はもとの何倍であるかを考察させる。	一、兒童用書の正六角形の長さを二倍にした圖を畫く。 二、畫いた圖の中に小さな三角形がいくつ出来るかといふことを考察させて何倍になつてゐるかをみる(長さを二倍にすると四倍になる)。	一、一、三邊三種の正六角形を畫けばよいことに氣づかせ、半径「初等算」の三、六角形と正六角形を畫き、その面積はもとの何倍であるかを考察させる。

月	題目	目的	要項	数理的生活態度	練習	準備	統合
	二	(59—63) 題問なろいろい					
	(53).....(59)	正五角形を切つて並べかへ矩形・平行四邊形・梯形を作らせる。	一、同じ正五角形四つを切りぬいていろいろな圖形をつくる	一、切り方は児童用書の圖に暗示してある。 二、最初は自由にならべて考へらせ、できない児童には適當な注意を與へる。 三、四つの紙片のうち三つだけを用ひてもよい。			
	(4)(5)(6)....(60)	花壇・米に關する問題を扱ひ、主として面積計算の活用をはかる。	一、花壇の面積 二、米俵の數 三、米のとれ高	一、矩形の土地全體の面積を求めて、道の面積を引けばよい 二、米俵の數は梯形の面積を求める方法と同じやうにしてできることに氣つかせる。 三、戸數一戸當りの意味をわからせる。			
	(7)(8).....(61)	重さの單位「トン」が用ひられる場合の例として、機關車の引く重さ、トラックの積載量を考察させる。	一、機關車が引いて行くもの重さ 二、トラックの積載量	一、一輛の意味、疋はキログラムなることを考へる。引く力は引かれる重さよりも小なることに注意する。機關車の重さは計算には必要なし。 二、「其の上に大人が三人のりました」これは運轉手や助手の人でなくて別の人である。			
	(9).....(62)	重さ、ます目、長さ、貨幣の單位の變換に關する問題を練習する。	一、單位の變換	$1000\text{kg} = 1\text{t}$ $1000\text{g} = 1\text{kg}$ $1000\text{l} = 1\text{kl}$ $10\text{dl} = 1\text{l}$ $10\text{mm} = 1\text{cm}$ $1000\text{m} = 1\text{km}$	$100\text{kg} = 0.1\text{t}$ $100\text{g} = 0.1\text{kg}$ $100\text{l} = 0.1\text{kl}$ $1\text{dl} = 0.1\text{l}$ $1\text{mm} = 0.1\text{cm}$ $100\text{m} = 0.1\text{km}$		

月	題目	目的	要項	数理的生活態度	練習	準備	統合
	二	(10)(11)(12)....(63)	小數や分數の觀念を適用する問題を解かせる。	一、鐵道の長さ 二、道のりと時間 三、もらつたみかん	一、10は筆算及び珠算を適用する。 二、11圖を畫いて考へさせる。 三、五分の二、五分の一などの意味がはつきりわかれば容易に出来る。		
	三	(64—65) 速さ	速さの觀念を明らかにする。	一、「一秒」の觀念 二、百米を十八秒で走つた人と十九秒で走つた人の速さを比較する 三、一分間に三百八十米走る人と四分間に三百三十米走る人の速さを比較する	一、長さ一米の振子によつて一秒の觀念を得させる。 二、定つた距離を行くのに要する時間が短いほど速さが大きい。 三、定つた時間に行く距離が長い程速さが大きい。		
	(55) 速さ	兒童が興味もつやうなもの速さを比較考察させ、速さの觀念を明瞭にする。	一、距離と時間 二、速さの意味 三、速さの考察	一、3の最初の問題は時間を一定するか距離を一定するかして考へさせる。 二、表の説明 表の値は最速度の大きいものなり速さとは平均の速さの意味である。			

月 目 目 的 要 項	數 小	算 計
<p>(70) んさ工大 分數の觀念に基いて、實際の場合を考察させ、分數計算の活用をはかる</p> <p>一、甲乙二人の 大工さんの仕事 二、二人の大工 さんの仕事 三、四人の大工 さんの仕事</p> <p>一、123共に兒童にはややむづかしい考へ方であるから、 できるだけ具體的に扱ふ。 二、此の種の問題は全體の仕事の量を單位とみて部分を分數 で表すことが考へ方の根本である。 三、大工は毎日同じ分量の仕事をするものと考へさせる。</p> <p>「初等算 三・四 五頁六 頁六十三」</p>	<p>(71) 厘 一 小數と分數との關係を明瞭にし、小數の觀念を正確にし、小數の位置を導き、読み方を教へる。</p> <p>一、1は物指によつて一種は一米の百分の一であることを氣づかせる。次に一種の長さを100ヨといふことを教へる。 二、「れいれい三メートル」「れいれいれい一厘といふことを教へる。 三、何米何厘・何米何十何厘を米單位で表す仕方を分らせる。</p> <p>一、6はますの圖などを利用して、具體的に考へさせ結局 0.05+0.08の計算で45.18をたして13を得て0.17を 得る仕方に導く。 二、7.12デシリットルは0.12リットルであることを注意させ0.12の4倍を求めると0.48の4倍と0.02の4倍とを合はせて0.96とする仕方に導く。</p>	<p>(72) 除乘減加 小數と分數との關係を一層明らかにし、小數の加減乗除の暗算を指導する。</p> <p>一、4 小數と分 二、5 一デシリ 三、6 小數の寄 四、7 引算の寄 算を掛ける掛 計算練習</p> <p>一、8の一米を四分分することは自由に考へさせる。考へ方の一例として「1は100あるから1を4で割ると100分の4の計算から0.01が二十五あることがわかる。0.01が二十五では0.25である。」 二、割算の場合に最も注意すべきことは小數點の位置を決めることである。</p>
<p>(73) 除乘減加 小數の加減乗除の暗算練習をさせる</p> <p>一、8 小數を整 數で割る割算 計算練習</p>	<p>(71—73) 數 小</p>	<p>三 (74—75) 題問ならいろいろ</p> <p>(7) (8) … (75) 小數を使つて面積の單位の變換を行ふ練習をさせる。</p> <p>一、7 學校の島の面積 二、8 單位の變換</p> <p>一、1は暗算。 二、2は筆算。 珠算で行はせる</p> <p>一、小數一桁までの計算では、小數點が縦に並ぶやうに注意し、さへすれば、整數の場合と全く同じである。 二、讀上算は工夫をしてわかりやすく讀む。</p> <p>「初等算 三・四 五頁十 五頁十」</p>

月 目 目 的 要 項	算 計
<p>(74—75) 題問ならいろいろ</p> <p>(1)(2)(3)…(74) 速さに関する問題を考察させて、小數計算の活用をはかる。</p> <p>一、1 汽車の速さ 二、2 歩く速さ 三、3 歩く速さ</p> <p>一、1 速さを言ひ表すには、どれだけの時間にどれだけの距離を行くかをはつきり言はなければならぬことを注意する 二、23に於ては兒童各自が一時間に凡そ何軒歩くかを調べさせてみる。</p>	<p>(76) 習練算計 小數の寄算引算を暗算筆算珠算で練習させる。</p> <p>一、1は暗算。 二、2は筆算。 珠算で行はせる</p>
<p>(4)(5)(6)…(75) 單位「アール」「ヘクタール」を教へて、面積の計算を行はせる。</p> <p>一、4「アール」「ヘクタール」 二、5 縮圖 三、6 三角形の地圖</p> <p>一、「アール」の正方形の一邊は十米、一ヘクタールの正方形の一邊は百米である。運動場に「アール」の面積を畫かせてみる。 二、縮圖は尺めた圖と解釋する。 三、平方米で出た答はアールで言ひ表させてみる。</p>	<p>三 (74—75) 題問ならいろいろ</p> <p>(7) (8) … (75) 小數を使つて面積の單位の變換を行ふ練習をさせる。</p> <p>一、7 學校の島の面積 二、8 單位の變換</p> <p>一、小數一桁までの計算では、小數點が縦に並ぶやうに注意し、さへすれば、整數の場合と全く同じである。 二、讀上算は工夫をしてわかりやすく讀む。</p> <p>「初等算 三・四 五頁十 五頁十」</p>

月	題目	目的	要項	數理的	生活態度	練成	重點	準備	統合
三	(76—77)	習練算計	<p>小數に整数を掛ける掛算を、筆算で行はせる。</p> <p>整数または帯小數を整数で割つて商を得、又餘りを求める割算を筆算で行ふことを指導する。</p>	<p>一、整数・帯小數を割つて商を得る。</p> <p>二、商の位の求め方。</p>	<p>一、小數に整数を掛ける掛算。</p> <p>二、5餘りの位取りに注意を要する。</p>	<p>一、小數の掛算を筆算で行はせるのは初めてである、整数に整数を掛ける場合と同様に計算し得た結果に、被乗數の小數部分と同じ桁數の小數部分を持つやうに小數點をうつのである。</p> <p>一、4の如き割算は初めてであるが、小數點の位置に注意すれば他は整数の計算と全く同じやうにできることを説明する。</p>			
	(77)	習練算計	<p>整数または帯小數を整数で割つて商を得、又餘りを求める割算を筆算で行ふことを指導する。</p>	<p>一、整数・帯小數を割つて商を得る。</p> <p>二、商の位の求め方。</p>	<p>一、小數の掛算を筆算で行はせるのは初めてである、整数に整数を掛ける場合と同様に計算し得た結果に、被乗數の小數部分と同じ桁數の小數部分を持つやうに小數點をうつのである。</p> <p>一、4の如き割算は初めてであるが、小數點の位置に注意すれば他は整数の計算と全く同じやうにできることを説明する。</p>				

製復許不



昭和十八年二月十五日印刷
昭和十八年一月二十八日發行

國防強化と理數科教育上(算數)

定價參 送料 拾五錢

著者 神奈川縣師範學校附屬國民學校

發行者 河内雪二郎

印刷者 岩崎林造

印刷所 明治印刷株式會社
東京市神田區錦倉町十九番地

發行所 鎌倉市雪ノ下 神奈川縣師範學校附屬國民學校
電話 鎌倉六四七番

神奈川縣女子師範學校附屬國民學校著

A 5 判

國民科授業細目

○國民科修身・國語・綴方・郷土の
 觀察につき教材のねらひ、指導の
 要項、指導の計畫を具體的に解示
 ○各學年用共教材配當一覽表を附屬
 す

○國民科運営の實踐記録

初四用	初三用	初二用	初一用
送料 三十五圓	送料 二十五圓	送料 二十五圓	送料 二十五圓
定價 三十五圓	定價 二十五圓	定價 二十五圓	定價 二十五圓

高度國防教育體制の確立と國民科の運營!!

發行所 新光閣
 東京市神田區保町三丁目一〇番七
 振替東京一三一〇一七番

B 5 判

本文鮮麗ガリ印刷

頒價 二圓八十錢

送料十五錢

國民學校經營資料

編本 定限教部

内外地、都市村落、大小等あらゆる條件を具にする全國著名國民學校に於ける學校經營實例を左記項目に分類、網大洩さず公開

- 一、經營方針一、——經營方針、學級編成職員組織方針、教室配置條件、職員室座席決定方針等
- 一、經營方針二、——校務分掌系統、時間割編成方針、校訓兒童訓、教員信條、成績考查方針、標語ノ割合、兒童役員、授賞種目等
- 一、日時程一、——兒童生活時程、職員勤務、宿直日直、每週行事
- 一、日時程二、——每月行事、每年行事
- 一、諸規定ノ綱領——奉養、服務、週番、職員會、規約、後援會等
- 一、諸形式順序慣例一般——出勤、朝禮、授業開始終了、晝食、終禮、清掃作業、職員會、週番引繼等
- 一、環境・整備——奉安殿、特別教室、郷土室、揭示場、立像等

發行所 新光閣
 東京市神田區保町三丁目一〇番七
 振替東京一三一〇一七番

B5判 本文鮮麗ガリ印刷

頒價 二圓九十錢

送料十五錢

國民學校經營資料

編 續

定限數部

本編を補足して完璧の經營資料たるを期す

内 容

- 一、保健施設——衛生室、手洗所、皮膚鍛練、藥劑驅蟲劑服用、治療、検査、測定、給食、養護學級等
- 二、夏季冬季鍛練施設——ラヂオ體操會、早起會海濱聚落、寒稽古等
- 三、勤勞教育施設——清掃、農耕、増産協力、飼育等
- 四、學校家庭聯絡施設——保護者會、招待、調査、通信簿、訪問、參觀等
- 五、戰時教育施設——大詔奉戴、時局認識、戰時生活訓練、防護避難等
- 六、兒童大會施設——音樂會、學藝會、展覽會、運動會、遠足等
- 七、諸團體聯絡施設——町村、部落、常會、青年團、在郷軍人會、職員指導所等
- 八、最近ノ諸施設及特ニ經營セル施設——映畫教育、學校放送、音感教育、郷土環境利用、禮法訓練、職員共濟、航空少年隊、模範航空機等
- 九、少年團、役員、內部組織、經費豫算、分團組織、事業等

發 行 所 新 光 閣

振 替 東 京 一 三 〇 一 七 番
東 京 市 神 田 區 神 保 三 丁 目 一 十 一 番

1884
284



